



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



イギリスで10月31日に始まった国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)が今月13日に終了しました。「グラスゴー気候合意」と名付けられた中身は気候上昇幅 1.5℃目標に向かって世界が努力するというものです。1.5℃目標のためには2050年までに世界の二酸化炭素排出量を実質ゼロにしなければならず、それには2030年までに2010年比で約45%削減しなければならないと言われていたようですが、そこは条約の文書には明記されませんでした。いずれにせよ気候変動に伴う豪雨や強風、干ばつ等が世界の中で顕著になっている現状で、今後ますます民間企業や自治体の役割が重視されてくることになりそうです。

今回は、三重県の中でもいち早くカーボン・オフセットに着目し取り組まれた大台町の事例をご紹介します。



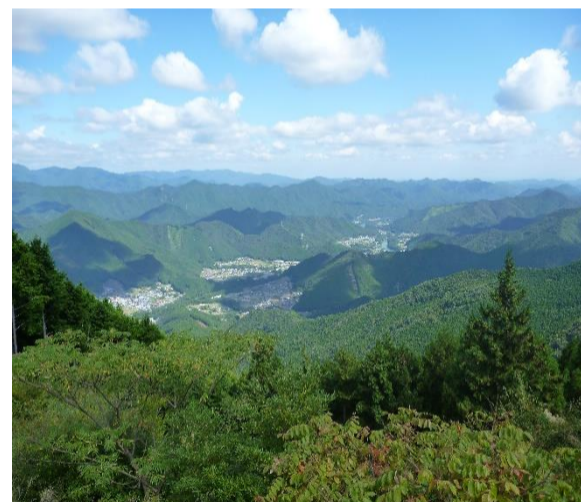
J-クレジットー森林吸収によるクレジット創出事業とその活用 三重県大台町宮川流域における持続可能な森林管理プロジェクト



大台町 J-クレジット制度取り組みの概要

大台町は三重県の中南勢部に位置し、水質日本一を誇る一級河川宮川が流れる自然豊かで「お茶と林業」を基幹産業とする、過疎高齢化が進む人口8,759人(令和3年10月末現在)の小さな町です。総面積362,86km²のうち93%を森林が占める農山村地域の当町が、森林を利用して環境に貢献することができ、森林管理の財源としても期待できる、J-クレジット制度は、まさに大台町のためにある制度と言えます。

長期的にみると、木材価格の低迷等が続く林業界において、森林が吸収する目に見えないCO₂が、カーボン・オフセットのクレジットに繋がっていくということについて、想像することは難しいですが、財政力の乏しい小さい町であるがゆえにその「収益性」に大きな期待を抱き、平成22年からクレジットを発行し販売を行っています。

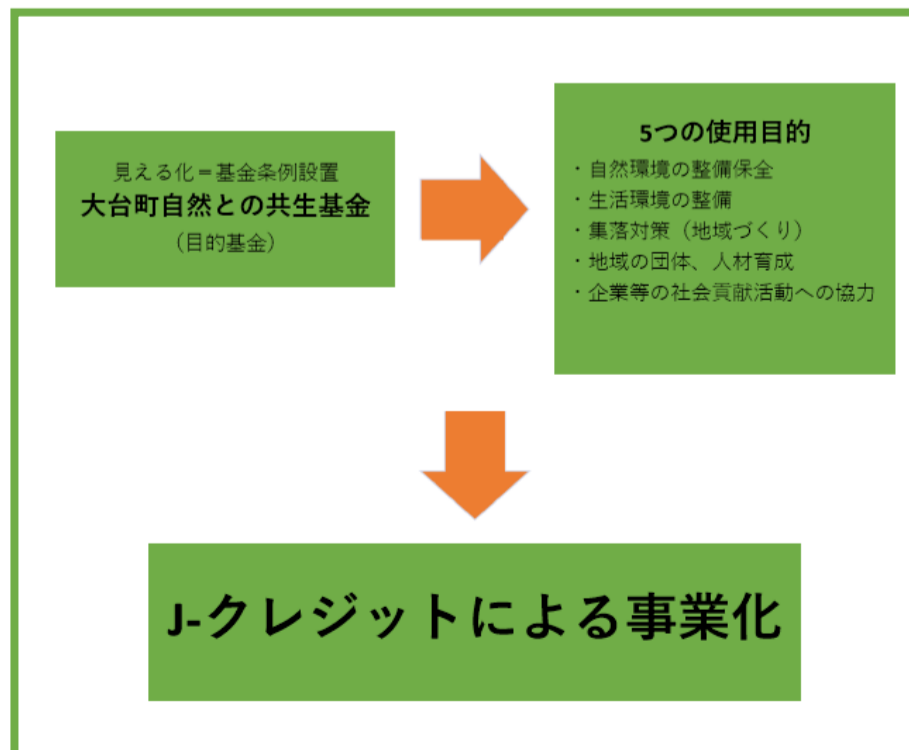


町有林1597haを対象に当初発行したクレジット6,241t/co₂の内、令和2年度3月末現在において、6,197t/co₂を様々な企業に購入していただくことで、約3,650万円の収益を得ています。

売り上げた収益については、購入企業等の地域貢献の資金と捉え、自然環境の整備保全や地域の生活環境の整備等に還元し、様々な事業に取り組んでいます。

J-クレジット事業への取組体制の整備

J-クレジット事業の取り組みを進める中で、単なる「収益ありき」ということではなく、J-クレジット制度は、当町と都市部の企業等とのつながりを創出する一つの手法であり、クレジットの販売を通して、購入していただく側である企業や他の地域と、当町とのつながりを築くことが、地域振興を考える上で最も重要ではないかと考えております。そのため、大台町森林課を中心に財政・条例担当の総務課、計画地域振興の企画課、環境担当の生活環境課、産業・商工観光の担当の産業課をまきこんだ組織を立ち上げ議論を行い、はじめに用途の「見える化」を図る必要があると考え、平成22年9月「大台町自然との共生基金条例」の制定(総務・企画)を行うと同時に、基金に関し「自然環境の整備保全」、「集落対策(地域づくり)」、「地域の団体や人材育成」、「生活環境の整備」、「社会貢献活動への協力」の五つの使用目的を設けることとしました。使用目的を定め様々な事業に取り組んでいます。



J-クレジット活用事例(抜粋)について

クレジットの収益は次のように当町の森林再生の原動力となり、さらに民間企業等とのつながりを生み、地域の活性化に寄与することができます。

□森林立地評価を実施

当町において森林立地評価を実施するにあたり、把握しておかなければいけない条件が、大きく分けて二つあります。

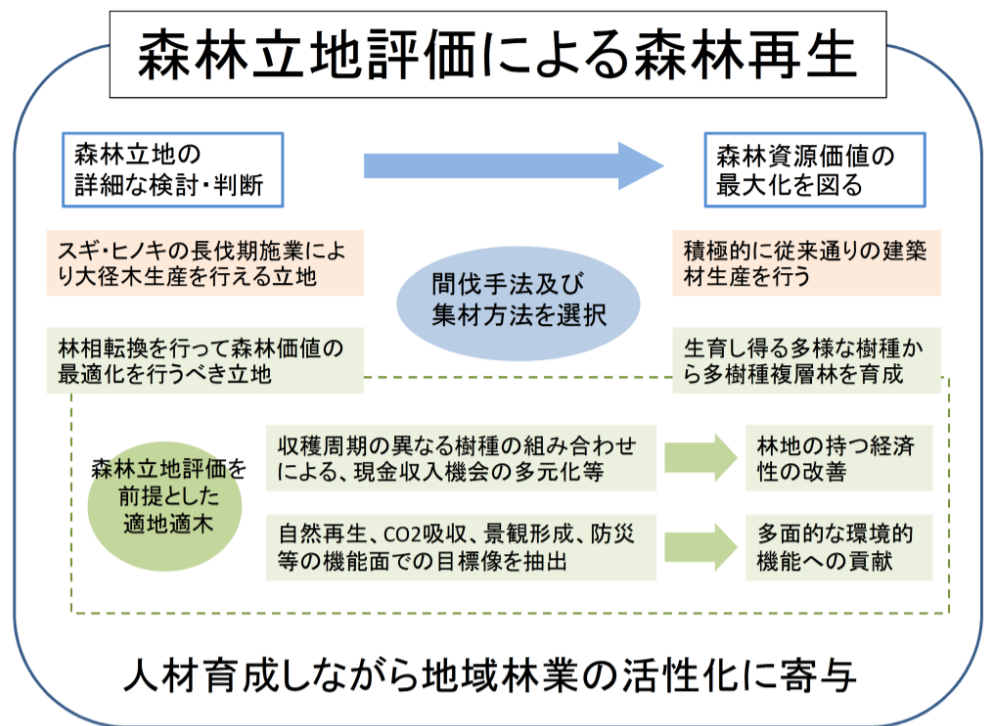
一つ目は自然条件です。斜面方位、斜面勾配、表層地質、地形の形状、土質由来、土壌粒径組成、水みちの状況、周辺現況植生の8項目を調査し、立地区分毎の特性を把握します。

二つ目は社会条件です。土地所有、法規制、人との関わりや思い、周辺社会環境等を把握し、その制約、利益、将来の変化を把握します。

上記の2項目を評価し、対象区域全体の造林目標を立て、評価区分毎に、施業方針(長伐期・林相転換等)及び施業方法(間伐方法・搬出方法等)、さらには施業優先順位を決定するなど、先進的な手法により森林管理を行っています。

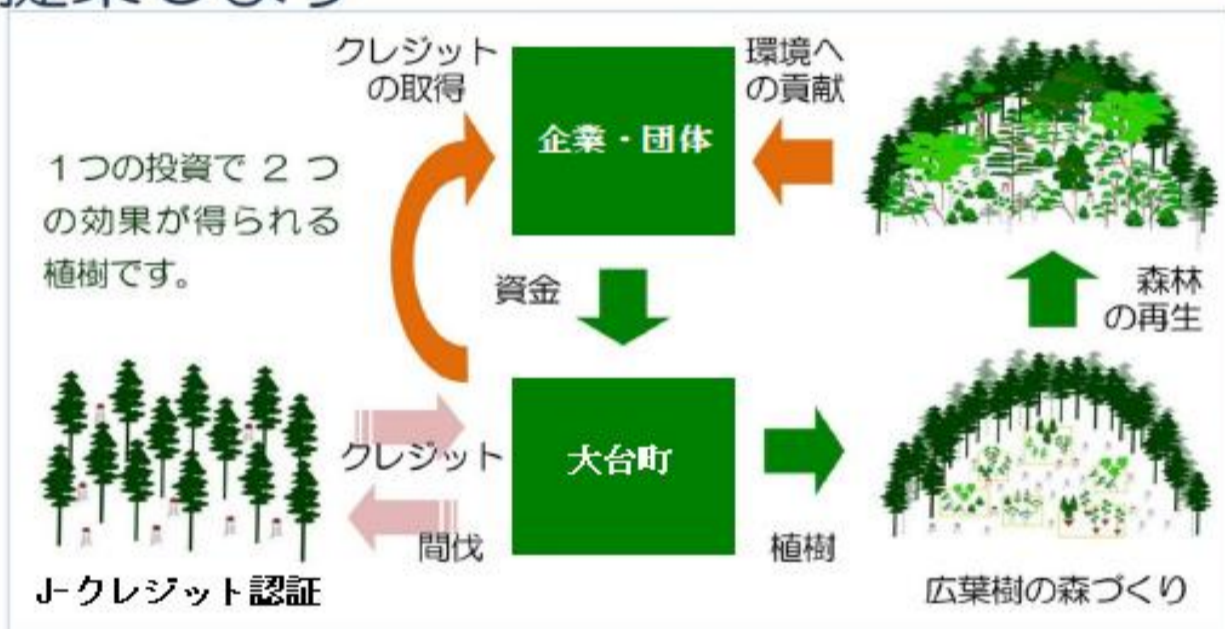
これら調査結果を森林GISに反映させ、大台町森林整備計画の根幹として、持続可能な森林管理を図りながら、森林再生を目指しています。

森林立地評価による森林再生



新しい森づくりを提案します

DUPLEX 植樹



□新たなもりづくりの提案

従来の企業の森活動を発展させ、1つの投資で2つの効果が得られる植樹方法を考えました。植樹を行うと同時に植樹相当額のカーボン・オフセットクレジットを得ることができ、企業様にとっては、環境貢献活動(植樹)とクレジットを同時に実施、取得することができるため、これまで当町では、様々な企業様に植樹を行っていただいています。



プロジェクトを担当された
森林課の保田知希さん

オフセット・クレジット(J-VER) 売上状況(令和2年度3月末時点)

年度	売上数量 (t-co2)	売上金額 (円)
22	1,455	9,584,925
23	693	5,045,250
24	927	5,008,050
25	949	4,401,600
26	346	1,976,400
27	353	2,014,200
28	448	2,664,360
29	400	2,176,200
30	423	2,408,400
元	104	630,300
2	99	566,500
合計	6,197	36,476,185



大台町宮川総合支所

今後について

当初発行を行ったクレジットについては、完売間近となっております。そのため、新たにクレジットの発行に向けて手続きを行っているところです。

今後は、世界的にもみても環境的な取り組みがより重要視され、J-クレジットの需要は高まっていくことが予想されます。企業様だけでなく、個人様にもJ-クレジットを理解していただき、購入していただくような取り組みを実施していきたいと考えています。

